

1 研究テーマ

見方・考え方を働かせ、自ら学びを拓く児童の育成

2 研究の実際

(1) 研究の方向

新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、部員が言語活動や評価の在り方について理解を深めることで、授業改善を図ると共に、主体的に学ぼうとする児童を育成するために研究・実践を行う。

(2) 研究の経過

第1回小学校英語科部会 4月19日（水） 八千把小学校

・部員確認、組織作り、研究主題確認、年間計画作成

第2回小学校英語科部会 7月31日（月） 太田郷小学校

・講話及び演習

「小学校における外国語活動および外国語科の指導と評価について」

講師 八代教育事務所 有田優子 指導主事

第3回小学校英語科部会 10月23日（月） 八千把小学校

・評価規準作成について

第4回小学校英語科部会 1月18日（木） 八千把小学校

・授業研究会 5年 Unit 8 「Who is your hero?」

授業者 八千把小学校 赤星菜月 教諭

講師 八代教育事務所 有田優子 指導主事

3 研究の成果と課題

外国語活動及び外国語における指導及び評価の在り方について理解を深め、授業改善に繋げるために、第2回の部会では講話及び演習を実施し、第4回の部会では言語活動の指導と評価に視点を据え授業研究会を行った。

第2回では、八代教育事務所の有田優子指導主事を招き「小学校における外国語活動および外国語科の指導と評価について」という演題で講話を頂いた。講話では①話すこと（やりとり）の内容と目標、②Small Talkの目的と指導のポイント、③評価規準の設定の仕方、④単元の指導計画と評価計画を中心に、「話すこと（やりとり）」の指導のポイントについて、実際にSmall Talkを体験して学んだり、単元計画を部員の先生方と協働して作成する演習を行ったりなど、言語活動と評価について体験的に研修を行うことができた。

単元計画作成の演習では、①単元のゴールの設定、②中心となる言語活動、③評価規準、④単元の指導計画について、部員の先生方と考えを出し合い、言語活動の4つのポ

イントである「伝え合う必然性があること」「相手意識をもって取り組むこと」「本物のコミュニケーションであること」「コミュニケーションの意義や楽しさを感じられること」を意識した言語活動を指導計画の中に位置づけたり、子供たちの意欲を引き出す単元のゴールを設定したりすることが大切であることを確認することができた。部員の感想の中には「演習で外国語を使ってやり取りをしてみて、自分のことを話したりする本物のコミュニケーションはとても楽しいと感じた。子供たちが本物のコミュニケーションの楽しさを味わえるように授業でも取り組んでいきたい。」「単元計画作成の演習で、相手意識の持たせ方、単元のゴール設定の工夫をたくさん知ることができた。2学期から学習する単元に生かしていきたい。」「評価について、単元のどの場面で記録に残す評価を行うのか、評価計画をしっかりと立てて指導と評価をしていこうと思った。」等があり、部員の先生方の言語活動の指導や評価の在り方に対する意識改善に繋がった。

第4回の研究授業では、5年生の「Who is your hero?」の授業を赤星教諭が行った。本時では「あこがれの人が得意なことを英語で言ってみよう」というめあてが設定されており、世界で活躍する日本人の写真を見て、子供たちとやりとりをしながら、その人たちの得意なことを新出表現である「be good at～」を使って表現したあと、自分のあこがれの人について表現する内容であった。授業では、ワークシートを使って、子供たちが自分のあこがれの人について表現できるように手立てを工夫しており、子供たちが意欲的に自分のことを表現する姿が見られた。授業研究会では、言語活動に対して「単元の評価は話すこと（発表）なので、話す活動を十分に行ってから書く活動をした方がよいのではないか。」や「発音の指導を授業の中でどのように位置づけていくか。」など、授業を参観して考えさせられたことについての質問や意見が出され、部員の今後の授業実践に向けて有意義な協議が行われた。



年間反省の中での部員の感想としては、「講話や研究授業で今後の実践に取り入れることができるものが多く有り難かった。」「単元の導入の工夫や Small Talk の進め方など先生方の実践から学ぶことができた。」「授業の中で言語活動を増やし、子供たちが自分のことを話すことを楽しむことができるように取り組んだ。」「子供たちの意欲が持続するような単元のゴール設定が難しかった。」等があり、今年度の部会の研修を通して学んだことが授業改善に繋がると同時に新たな課題点も明らかになった。

今後の課題としては、言語活動を通した指導のさらなる充実と、目標と指導と評価の一体化を図る授業づくりについて、理解を深め実践につなげていくことがあげられる。講話や研究授業を通して学びを深めたり、言語活動や評価の具体的な事例や授業展開例などを共有したりすることが授業改善に繋がると考えられる。